



第9期神奈川区地域づくり大学校

第2講 変化したぞ！地域づくり 新たなポイントを伝授します

第2講概要

日時 : 2023年10月22(日)13:00~16:00
 場所 : かなーちえ(神奈川区地域子育て支援拠点)
 ゲストスピーカー: 石井大一郎 氏 (宇都宮大学准教授)
 ファシリテータ : 塚原 泉 氏 (NPO 法人親がめ)

当日のプログラム

- あいさつ・アイスブレイク
- 講義&ワーク「変化したぞ！地域づくり」
- お力交換ワーク (3~4人グループ)
- 情報提供・事務連絡
- 内省タイム・ふりかえりシート記入

■石井大一郎氏(宇都宮大学准教授)の軽快&深い講義と対話ワーク

事例より 新しいまちづくりの紹介

- ・戸塚区：大人の寺子屋がほしい！の声に集まったのは、同じバス停を利用する人たち
→町内会組織でやろうとすると合意形成が困難。
有志が実行部隊となって町内会のもつ信頼性や広報力を活用
- ・栃木県：圧倒的に若者が少ない。地方は今“選択される郊外と捨てられる郊外”に二極化
→中・高生が地元で最後に過ごす時期になっている。その力を取り込む視点
→日光市ではU40の地域づくり塾を開催 若い世代がやってみたいことを大人が応援する仕組み
ワーク) 変化する時代、自分が思う何が変化？なぜ？大事なことは？を書き出して、グループで出しあう
→ついネガティブチェックをしがちだが、前向きな変化するぞ！のマインドが大切

ラーニングピラミッド

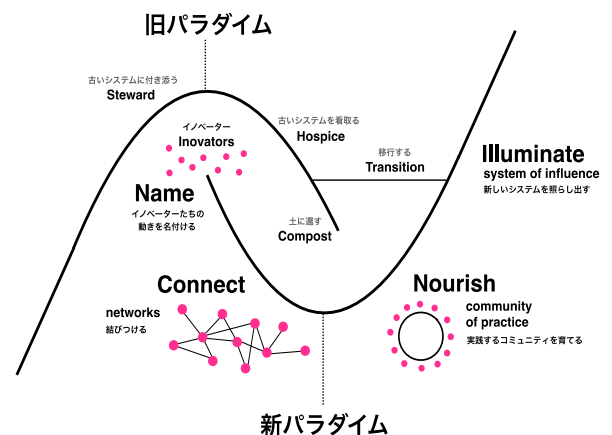
- ・成人教育の分野における仮説
- ・聞いたことは数か月経つと95%程度忘れている
→読んだことは少し改善→ディスカッションすると50%程度残る
異なる考えや価値観に出会うことで定着
聴く=聴す(ゆるす) 耳だけでなく、目や心をそそぐ

イノベーション

- ・旧パラダイムではうまくいかないことに気づいた人=イノベーター
最初は弱く不安げな個人→つながることで力を得る
常識的な方法を疑う、横に置いておくことが有効的

「地域づくりは課題解決ではない」

- ・もちろん課題は解決したほうがいいけれど・・・優先しすぎると失うものが大きい
- ・誰の課題か見失う、重い責任で活動から人が離れる
- ・課題解決よりも主体形成！：主体形成=話し合える相手を増やすこと
c.f) コロナ明けで復活したまつり：単に来客数の結果をもとめず、
何のためのまつり？を議論できる仲間を増やすこと



坂倉・醍醐・石井『コミュニティマネジメント』
 中央経済社、2020、p27

これからの地域づくり

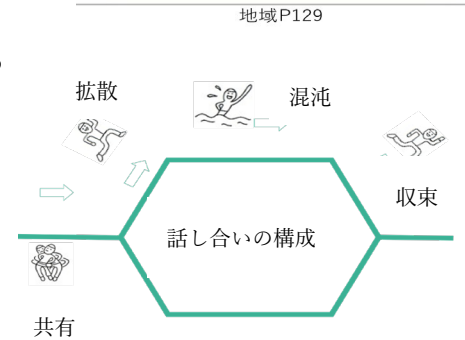
① 地域を楽しむ

- ・まず自分が思う“あったらいいな”“こうなったらいいな”を出す。
それと現状とのギャップが活動
- ・仲間が3人集まったら、スモールステップでやっていく≒「デザイン思考」
- ・マズローの欲求段階6段階の理論
今の時代は最下層の欲求が満たされていないことがある
下位と上位の階層の欲求が同時に起こっている
「貧困」「虐待・暴力」「世帯人数の減少によるマイナス側面（低栄養・交流減少等）」



② 対話できる新しい仲間をふやす

- ・話し合いの構成：「共有」→「拡散」→「混沌」→「収束」
今日の場の意味を参加者は確かめよう 今日共有をしっかりと アイデアだし？
混沌が大切 発言していない人はいないか？
意見を言えない→次参加しない あわてて収束しない
※対話とは異なる意見や価値観から学習する行為
ワーク) ファシリテーションにとって大切なことは？を出しあおう
中立／相手に興味をもつ／聴くこと／共感／否定しない／全員の意見をきく
対立している意見をまとめるには葛藤も
合理的な正しさよりも参加者の納得感を
・できること：うなずき、復唱→復唱することで受け止め感が得られる、さらに質問が起こり解像度が上がる
・中立を保つために、答えをいうのではなく、選択肢をしめす



③ 自治の原則を外してみよう

- ・自治の原則：境界・会費・会則・代表→責任と主体を分けてみる・色々な人による色々なコトを事例) ①金沢区地域食堂「ほっこり」実行委員会方式で責任・主体を町内会から分離
②世田谷区野沢3丁目遊び場づくりの会：子育て世代が自主的に運営 大人がやりたいことを

④ 動機についての考察

- ・非営利活動における7つの動機
- ・まちづくり活動には職業的地位・教育達成度・家族人数・居住年数が有意な関係
課題認識は参加とは有意な関係ではない→
課題を知っていても活動につながるわけではない
- ・グループ動機：課題とは関連のない仲間がいる、できる等の動機がある

参加動機の構造（7つの因子）



作成：石井研究室阿藤結衣

再びイノベーションについて

- ・イノベーションとは新しい技術が生まれて起こるものではない
- c.f) 鉄道 = 蒸気による動力 + 馬車の車輪
- ・すでにあるものの「新結合」がイノベーションを生む
- ・何と何を結合する？一石二鳥、三鳥になること
- ・地域資源マップ win-win でつながる 相手も喜びそうな先を勝手に考える その妄想が楽しい

■対話タイム:お力交換ワーク

・記入した交換シートを見せながら、グループでトーク&メモ・途中グループメンバーをシャッフル



受講生各々が持つ色々な力・知恵・経験を楽し対話の中で交換し蓄える。相手の話を聴き砂漠からゴマ粒を探すように、自分を見つめ直す。こうした時間の積み重ねが、きっと！これからにつながるはず♪

FOR YOU	こんな力・知恵 かせます♪	こんな力・知恵 かしてほしい♪	HELP ME!
🎁		🎵	
🎁		🎵	
🎁		🎵	
🎁		🎵	
🎁		🎵	
🎁		🎵	
🎁		🎵	
🎁		🎵	
🎁		🎵	
🎁		🎵	

■受講生の気づき・学び・これからへ向けて(抜粋)

- ・“聴く力”をもっと高めていきたいと思った・自分にはできることがたくさんあることに気づける
- ・やりたいことをみんなに伝えたいを思っていた！
- ・地域活動の事例・ポイントの共有がたくさんあって、動き出すためのヒントになった
- ・チカラの共有の時間も互いの持ち味を活かしたコラボの可能性を感じた
- ・得意なことをたくさん持っておられる方が多いので色々知恵をお借りできたらうれしい
- ・人とのつながりやコミュニケーションを大切にしていきたい
- ・「対話」について学べた時間だった。これらの知識は様々な地域で使えると思うので、実践できるようにしたい
- ・まちづくりのすすめやすさと課題認識の程度に相関がないと知り、やはり皆が「楽しい」「ためになる」と感じられることが第一なのではと考えた
- ・ビジョンに少し共通点がある方がたくさんいて、こうしたい、やってみたいと話す場がただただ楽しかった。これが一種の「拡散」に当たるのではと思った
- ・広い視野やいつもと異なるフィールドでは自分のスキルがこんなにも重宝されるのかと驚いた
- ・やりたいことをもっと発展させるために似たような考えを持った仲間と知り合うことが励み・目標になる
- ・「地域づくりは課題解決ではない」という言葉が一番印象的でした。答えや解決に焦点をあてるのではなく、話し合いの過程から生まれるものがきっかけになったりすることを学びました
- ・自分はこうしたいと思う考えもある、だけど場がない。でもこの機会仲間と出会えた。新しいことがはじまるワクワク感があるから、ちょっとずつ自分がこうしたいと思う場を自分でつくっていこうと思う。
- ・何かを始めるときに“3人いれば始める”始められるのか！と思った
- ・妄想100本ノック、防災100本素振り(×空振り)を続けていこうと思います